



## ALL PEOPLE



### ゴミ出し — ニューヨークの場合 — Throwaway Garbage in NYC

ニューヨーク市には日本のような「ゴミ収集所」がありません。回収日前に自分のアパートやオフィスの前にゴミ袋を置いておくと、収集車が回収に来ます。

いろいろな種類のゴミの中に、大型の家具もドンと捨てられています。



ニューヨーク市



ニューヨーク7番街

アメリカのゴミの分別の分け方は日本に比べるとおおざっぱです。普通ゴミと資源ゴミ(リサイクル可能なもの)の2種類に分けるだけです。

資源ゴミには、ビン、缶、ペットボトルなど各種あるわけですが、いったん全部回収してしまい、あとで分別します。

.....

実は昨年、ニューヨーク市内からスタンフォード(コネチカット州)に引っ越しました。引っ越し前には大量の家具や道具を処分しなければならませんでした。



引っ越し業者のトラック(ニューヨーク)

家具の大半は欲しいという人にあげましたが、処分しきれないものもありました。

日本なら「粗大ゴミ」として有料で回収してもらいますが、ニューヨークでは回収は無料で、出しておくだけで勝手に回収されます。

6月から9月の引っ越しシーズンには、ベッド、クローゼット、ダイニングセットなどの家具が市内の道に出ていることもあります。



## ALL PEOPLE



家具を探していた通行人が、回収前に出された家具を持っていくこともザラです。



今、住んでいるスタンフォード(コネチカット州)の街の再生資源を回収してリサイクルを促す案内板

アメリカでは個人間での売買が盛んなため、日本では捨てられてしまうような耐久消費財が、所有者を変えながら長く使われます。

日本では個人間での物の売買や中古品に抵抗を感じる人が多いかもしれませんが、アメリカ人はあまり気にしません。

個人間の直接の売り買いではなく回収された家具はどうなるかというと、非営利団体のセンターで売られることになります。

アメリカでは日本よりも家具リサイクルセンターが人気で、ここで家具を探す人も結構います。

質的には「まあまあ」程度で、すごく良いものはないのが普通ですが、マンハッタンで素晴らしい家具が中古品として展示されていたのを見たことがあります。まめに通えば、掘り出し物もあるということでしょう。売上金はチャリティー団体への支援金となります。



**John Russell(ジョン・ラッセル)**  
アメリカ、バージニア州出身。アメリカ国内の大学卒業後、上智大学および早稲田大学国際学部日本語学科卒。大手商社の英語研修やNHK文化センター、津田英語会などの教育担当を長年務める。趣味はフルマラソン。現在はコネチカットからニューヨークに通勤する生活。

このように貧困支援のチャリティー面では、アメリカはシステムが進んでいますが、基本的なゴミ排出量の多さは問題です。

ニューヨーク市内の一日のゴミの量は、約4万トンといわれます。市内に処理場がなく、一般ゴミをトレーラーや鉄道、船で他の州や時には国外へ運び、埋めています。このゴミ輸送時にも、温室効果ガスを排出しているわけです。

環境問題として、今後改善する必要があるでしょう。



スタンフォード(コネチカット州)の自宅

### Key



### Phrases

- **Recycling centers are very popular in the U.S.A. although many items for sale are often not great quality.**

アメリカではリサイクルセンターが人気ですが、多くの場合、品質はよくありません。

\*items for sale 売られている品物

### Key



### Phrases

- **However, I was impressed with the high quality items at some of the used goods stores in Manhattan.**

とはいえ、マンハッタンでとても品質の良い中古品を見て、感心したことがあります。

\*be impressed 感心した、感動した